

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 長行 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

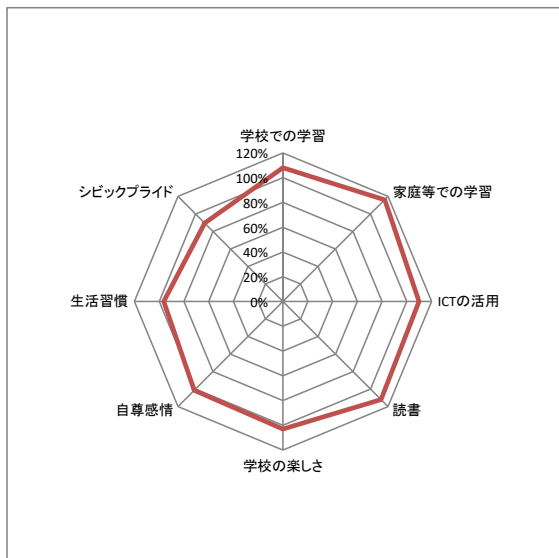
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高い。 ・「読むこと」に課題がみられる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」に関する問題に改善がみられる。 ・「図形」と「数と計算」に課題がみられる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいか」との問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。 ・読書に関する問いに対して肯定的に回答した児童が多くいる。引き続き、「学校図書館」や「学校図書館職員」の積極的活用、「長行タイム」での読書活動や「地域人材を活用した読み聞かせ」を充実したものにしていきたい。 ・ICTに関する問いに対して肯定的に回答した児童が多くいる。引き続き、教師の学び（授業観）と児童の学び（学習観）の転換を図り、社会の変化に対応した教育活動を行っていきたい。 ・家庭等での学習に関しての肯定的に回答した児童が多い反面、生活習慣に関わるSNSや動画視聴に費やす時間が多い児童も一定数いる。 ・シビックプライドに関する問いに対して肯定的に回答した児童が少なかった。地域のよさを感じたり地域の人との関わりがもてたりする学習を各学年で実施し、地域に誇りをもち、大切にすることを培うようにしたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間に集中して学習に取り組み、主体的な学習態度の形成に向けて、今現在継続中のコグトレを活用した「認知機能の向上」や教師の「授業改善」と児童の「学習改善」に取り組み、児童自らがその時間の学習のまとも（大切なこと）を書くことができるようにする。 ・毎朝の「長行タイム」や週4回の「パワーアップタイム」を有効活用し、補充学習の充実に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習（宿題や自主学習）の内容を工夫し、学年×10分の家庭学習の定着を図る。 ・「おさゆき生活・学習いきいき表」で、家庭学習を含めた一週間の生活時間の記録をつけることにより、自身の時間の使い方についての改善を図ると同時に、家庭への規則正しい生活への啓発を促す。
